

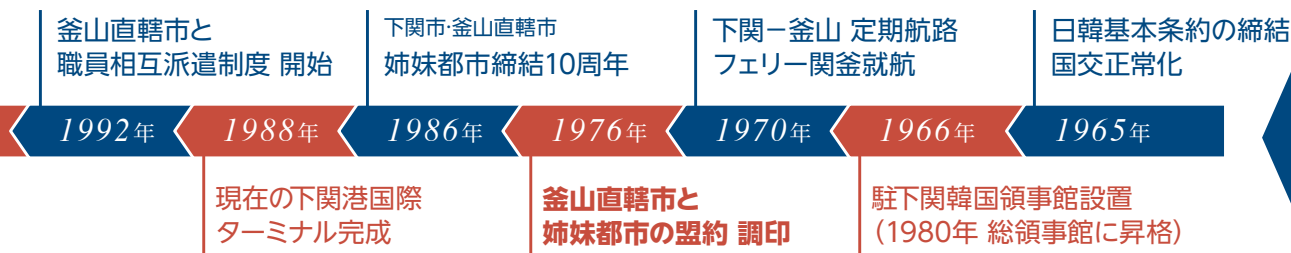


1972年

50年のあゆみ 交流が育んだ友情の歴史

下関市と釜山広域市は、1976年に姉妹都市を締結して、今年で50周年を迎えました。

文化・スポーツ・経済など、さまざまな交流を積み重ねながら育まれてきた友情は、今も市民同士のつながりとして息づいています。両市が歩んできた50年の歩みと、今につながる交流を紹介します。



釜山広域市 との 主な出来事

50 Years
of Friendship



1997年

駐下関大韓民国名誉総領事館開設(下関港国際ターミナル内)



1996年

姉妹都市締結20周年記念式典(釜山広域市)



1966年

下関市に韓国領事館設置(大和町旧下関大丸内)



海雲台



広安里

釜山って
どんなまち？

韓国南東部に位置する釜山広域市は、人口約320万人を擁する韓国第2位の都市であり、朝鮮半島南端に位置する港湾都市です。

港を中心に発展した街で、海と共に暮らす文化は、下関とも共通しています。海を挟んだ隣まちとして、両市は長年、交流を重ねてきました。

釜山直轄市との
姉妹都市の盟約 調印

▼フェリー関釜就航



02 なぜ、姉妹都市になったのか？

1965年の日韓国交正常化後、両市の交流は活発化し、韓国領事館や下関―釜山定期航路便の開設を契機として、さまざまな分野で結び付きが深まってきました。

交流の積み重ねを背景に、各方面から姉妹都市締結の機運が強まり、1976年に姉妹都市の盟約が結ばれました。

03 下関と釜山をつなぐフェリー

1970年、下関と釜山を結ぶフェリー関釜が就航しました。海を越えて、人や物を運ぶこの航路は、経済や観光だけでなく、市民同士の交流を支える大切な役割も果たしてきました。

就航から半世紀以上が過ぎた今も、多くの人を乗せて両市を結び、交流の歴史をつないでいます。

現在

下関市・釜山広域市
姉妹都市締結40周年

海響マラソンに釜山
から選手団招待

馬関まつりで朝鮮通
信使の行列再現 開始

駐下関大韓民国
名誉総領事館 開設

2026年

2016年

2015年

2009年

2006年

2004年

2001年

1997年

1996年

下関市・釜山広域市
姉妹都市締結50周年

釜山港 新国際旅客
ターミナル供用開始

下関市・釜山広域市
姉妹都市締結30周年

第1回 リトル釜山
フェスタ 開催

下関市・釜山広域市
姉妹都市締結20周年



朝鮮通信使の行列再現 (馬関まつり)



姉妹都市締結30周年記念式典
(市民会館)



第2回リトル釜山フェスタ (グリーンモール)

ホームステイ 受入れ経験者の声



釜山に行った金田さん家族
一人ひとりに手紙付きの
プレゼントを用意してくれた
ソヘさん(左から2人目)



ホームステイ当時のソヘさん
(右)

国境を越えて、家族のような絆に

ホームステイで我が家に迎えたソヘさん。初日から家族の一員のように過ごし、帰国の日には娘と2人でカラオケを楽しむほど打ち解けました。現在もSNSで交流を続けており、これを機に私自身も韓国語を学び始めました。



金田 真弓 さん



いま、韓国文化がアツい！
下関にある韓国



姉妹都市締結50周年を記念して、6月27日にK-culture フェスティバルがドリームシップで開催されました。NANTAの舞台公演をはじめ、韓国ドラマの名曲を楽しむ生演奏や韓国メーク教室など、多彩な催しが行われ、多くの市民が韓国文化に親しみながら、50年にわたる交流の歩みを身近に感じる1日となりました。舞台公演のメインとなったNANTAでは、言葉を使わないノンバーバルパフォーマンスで会場が笑顔と拍手に包まれました。舞台や教室を通じて、多くの市民にとって韓国文化に触れるきっかけとなりました。

海がつなぐ
もうひとつの故郷

初めて下関を訪れましたが、海の香り、魚市場の雰囲気、釜山とよく似ていて、故郷に帰ってきたような気持ちになりました。

釜山の人は忙しく動き回っていますが、下関の人は落ち着いていて、余裕があるなと感じました。安らかな気持ちになる街ですね！

NANTAは、言葉を使わないノンバーバル公演です。音楽やリズムは国境を越えます。会場の皆さんが、とて

NANTA出演者(釜山出身)
シン・ミヒョンさん



も楽しそうに笑ってくれたので、うれしかったです！もっと多くの人にNANTAを楽しんでもらい、日韓の交流の輪が広がればうれしいですね。



DIY教室



韓国で人気の「ミューズズ（ミュージアムグッズ）」作りを体験。韓国の国宝・石塔をモチーフにした組み立てキットを使い、楽しみながら韓国の歴史や文化財にも親しみました。

メイク教室



韓国で人気のメイクアップ方法を体験。韓国アイドルのトレンドメイクや、一人ひとりに似合う色を見つけるパーソナルカラーについて学び、韓国美容の魅力に触れました。

料理教室



下関と釜山の食材を使って、韓国の定番料理「トッポギ」と「キンパ」作りに挑戦。ペファ女子大学のキム先生から、おいしく仕上げるコツや美しい盛り付けなどを学びました。

勇気を出して、今度は釜山へ

下関で韓国メイクを学ぶことに魅力を感じて参加しました。韓国ならではのメイク方法はもちろん、講師が一つ一つの効果を丁寧に説明しながら熱心に教えてくれました。韓国の方の熱量に触れ、もっと韓国文化を知りたいと思いました。今度は本場の文化や食にも触れてみたいです。

佐々木 菜摘さん

韓国文化をととても身近に感じた!

NANTAの出演者が客席の後ろから登場し、会場全体を巻き込んでスタート。観客をステージに上げる演出や、包丁やまな板で刻む軽快なリズムに引き込まれました。今後も市民が楽しみながら交流できるイベントが続いてほしいですね。

原 梨花さん

맛있는 부산먹방 釜山グルメ 紹介!

낙곱새 ~ナッコプセ~

돼지국밥 ~데지국밥~

밀면 ~밀리몬~

釜山に行って食べてみたい! 釜山発祥グルメ

釜山を訪れたら、ぜひ味わいたいのが地元で愛されるソウルフード。ナクチ(タコ)、コプチャン(ホルモン)、セウ(エビ)をピリ辛だれで煮込んだ「ナッコプセ」、牛骨ベースのスープに小麦粉麺を合わせた冷麺「ミルミョン」、豚骨スープに豚肉をたっぷり入れて煮込んだスープご飯「デジクッパ」など、旅先で本場の味を楽しんでみませんか。



釜山花火大会

これまで育まれてきた交流は、若者を含む市民の活動へと受け継がれています。それぞれの立場で、下関と釜山をつなぐ人たちに、これからの交流への思いを聞きました。

下関市民と釜山市民の交流 次の50年へ



「チルソクの夏」
(釜山・国際市場のワンシーン)

映画がつなぐ、心と心

言葉だけで心を通わせることは簡単ではありません。そこで韓国教育院が着目したのが「映画」でした。家族愛や青春など、人の感情は国が違って同じです。姉妹都市締結50周年を機に、韓国映画「国際市場で逢いましょう」と日本映画「チルソクの夏」の上映会を開催(8月2日、市民会館)。映画が市民同士の自然な交流のきっかけになればと願っています。



大韓民国 教育部
下関韓国教育院 院長
李 元烈 (イ・ウォンヨル) さん



© Miss Universe Japan 2026 Organization

ミス・ユニバース2026
日本代表(下関市出身)
伊藤さゆきさん

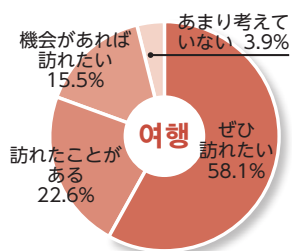


あの日の出会いが 私の未来を変えた!

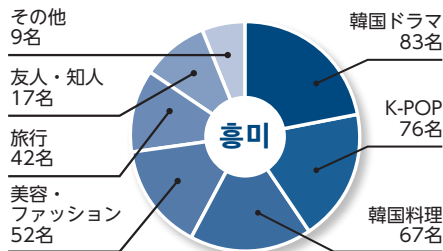
中学3年生の時、所属していた劇団の公演で初めて釜山を訪れました。
韓国の人たちは喜びや楽しさを素直に表現していて、日本では経験したことのない新鮮な驚きがありました。その経験をきっかけに

韓国をもっと知りたいという思いが強くなり、留学を決意しました。異なる文化の中で培った挑戦する力やコミュニケーション力は、現在のミス・ユニバースへの挑戦にも生かされています。
子どもの頃の国際交流は、新しい一歩を踏み出すきっかけになると思います。

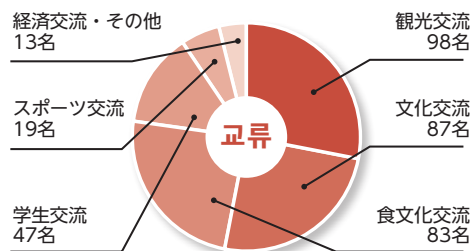
今後、釜山を訪れてみたい？



韓国や釜山に興味を持ったきっかけは？



下関市と釜山広域市の交流で期待するものは？



Kculture フェスティバル
参加者に聞きました



下関市ソフトテニス連盟
理事 中嶋 勇さん

スポーツは、言葉や文化の壁を越えて友好を育む力があると感じています。試合を通して打ち解けた選手たちは、帰国の際には固い握手で再会を約束していました。参加した高校生たちは、表情が豊かになり、自分の思いを伝えようとする姿勢が育まれると実感しています。このような交流が、スポーツだけでなく、さまざまな分野へ広がり、深い絆につながること期待しています。



釜山の人たちと交流できて楽しかった！



スポーツ交流経験者にインタビュー

イベント告知

8/13



関門海峡花火大会
姉妹都市締結50周年記念プログラムが予定されています。
※P8参照。

8/22



馬関まつり 朝鮮通信使行列再現
※P11参照。

11/23



リトル釜山フェスタ



釜山訪問ツアー
※詳細は改めてお知らせします。



釜山広域市交換職員
尹 洸鎬 (ユン・グァンボ) さん

ともに歩む、次の50年へ
下関で暮らし始めて間もなく1年。下関の皆さんはとても親切で、韓国や韓国語への関心の高さを日々感じています。下関と釜山は、美しい海に面した港町で、おいしい食や夜景など多くの共通点があります。姉妹都市締結50周年を機に、文化や観光など、両市を往来する交流がさらに広がることを期待しています。

市民にとって最も身近な外国である釜山との交流は、歴史だけでなく、人と人との出会いによって受け継がれてきました。そして、その交流は、未来へと続いています。

閩国際課(☎231-9653)